

## めざましい成果を見せる市内遺跡の発掘調査

### 放亀山1号墳の発掘調査

赤穂市教育委員会では、市内にある埋蔵文化財の保護を図るため、遺跡の分布調査を継続的に実施しています。放亀山1号墳は、こうしたなか発見された、東有年地区と有年栖原地区とにまたがる丘陵頂上にある古墳です。

放亀山1号墳は、平成29年度に範囲を確認するための発掘調査を行い、全長38m、2段に造成された、市内初の前方後円墳であることが判明しました。築造された時代は古墳時代前期(3世紀)であり、埋葬施設の内容は明らかではありませんが、盗掘などを受けた痕跡がないことから、現在も埋まったままだと推定しています。

調査では、古墳の表面に据えられた石(葺石)がたくさん見つかったほか、埋葬施設のある頂上では多くの土器が見つかり、古墳の形状や築造方法、築造年代などを知る重要な手がかりが得られました。

前方後円墳の発見は、赤穂市のみならず旧赤穂郡、さらに播磨地域における古墳時代の始まりを明らかにするうえで大変意義深いものです。

今年度には、この調査成果を収めた報告書を刊行する予定ですので、ご期待ください。



放亀山1号墳 復元図

### 赤穂城跡の発掘調査

赤穂城跡は、昭和46年に国史跡の指定を受けて以後、赤穂市のシンボルとして継続的に整備を行っています。現在は本丸の整備が完了し、二之丸庭園の整備を行っているほか、二之丸の石垣修理を行っています。

このたび、こうした整備の基礎資料を得るための発掘調査を、二之丸西中門跡と二之丸東櫓台にて実施しました。

西中門跡の調査では、礎石が発見されたことなどから門の形式が高麗門であったことが判明したほか、土橋や石垣の構造など当時の景観がほぼ明らかになりました。東櫓台の調査では、櫓台が大きく崩れていましたが、その規模は現在に残された古絵図どおりであることがわかりました。

これらの遺跡の調査では、それぞれ市民向けの現地説明会を開催しました。説明会資料につきましては文化財系のWebサイト「赤穂市の文化財」(<http://www.ako-hyg.ed.jp/bunkazai/webtosyo.html>)からダウンロードできますので、ご活用ください。



二之丸西中門跡の発掘調査



二之丸東櫓台の発掘調査

# すくすく のびのび いきいき

## 地域伝統文化保存事業について

赤穂市では、平成29年度より「地域伝統文化保存事業」に取り組んでいます。

「播磨は獅子どころ」と言われていますが、赤穂市内においては25地区で獅子舞が传承されており、兵庫県内でも獅子舞が盛んな地域として知られています。

しかし、少子高齢化や人口減少により、獅子舞の担い手不足が深刻となっており、その継承が懸念されています。

地域伝統文化は、無形の民俗文化財としてだけでなく、地域コミュニティの形成や世代間交流、地域住民の生活基盤の維持に重要な役割を果たすものと期待されています。

実施主体となる「地域伝統文化保存事業実行委員

会」では地域伝統文化の維持・保存のため次の事業を行っています。

### ①記録作成

市内の祭礼や獅子舞を対象とした映像を記録したDVDを作成します。作成したDVDは市民の皆さまにも貸出します。

### ②情報発信

映像は赤穂市ホームページ上の「Channel Ako」で公開することにより、赤穂市の伝統文化を発信する素材として普及・広報等に活用します。

### ③普及啓発

地域で行われている獅子舞が一堂に会する「赤穂市伝統文化祭」を開催します。

## 第2回赤穂市伝統文化祭が開催されました



地域伝統文化保存事業の一環として、9月24日(月・祝)に地域伝統文化保存事業実行委員会の主催による第2回赤穂市伝統文化祭が赤穂市文化会館ハーモニーホール大ホールで開催されました。

今年会場を小ホールから大ホールに変更しましたが、ほぼ満席となる約1200名の皆さまにご観覧をいただきました。

今年、獅子舞を披露していただいた団体は、木生谷獅子舞保存会、新田西部獅子舞保存会、福浦本町東獅子舞保存会、砂子獅子舞保存会、木津獅子保存会、大津獅子舞保存会の6団体で、いずれの団体も

地域に伝わる伝統の舞を力強く披露していただきました。

観覧席から登場する獅子舞もあり、小さな子どもが泣き出ししてしまうこともありましたが、場内は大変盛り上がりしました。

なお、今回ご出演いただきました6団体につきましては、今年地域の祭礼、獅子舞奉納の様子を映像撮影し、DVD発行や赤穂市ホームページ上で公開する予定です。

ご出演していただきました団体をはじめ、祭典開催にご協力を頂きました皆様には、厚くお礼申し上げます。



## ICT機器を活用した効果的な学習をすすめています

ICTとは、Information（情報）Communication（通信）Technology（技術）の略です。赤穂市の小・中学校では、コンピュータ、デジタルカメラ、プロジェクター、タブレットPC、ICレコーダー、電子黒板などのICT機器を活用したさまざまな授業が展開されています。

今回は、その一例を紹介します。

### 録音再生で再確認

国語の「音読」や「スピーチ」などの学習では、ICレコーダーを活用して録音再生し、読む速さや抑揚、間のとり方など、よいところを教え合う学習をおこなっています。自分の音声を客観的に聞くことを通して、意欲的に読み、聞くことに集中した国語の授業が展開されています。

### 資料はカラーで拡大焦点化

社会科の学習では、写真、図、グラフなどの資料から読み取る力が求められます。電子黒板に資料をカラー表示し、気付かせたい部分を焦点化すると更に学習も深まります。



### 観察変化を動画再生

理科の「植物」や「天体」などの学習では、実物の観察に加えて、ビデオを活用することにより、ヘチマの発芽や月の満ち欠けなど、時間の経過による変化を確認することが可能となります。

### 拡大表示で図形操作

算数・数学の「図形」や「グラフ」の学習では、コンピュータを活用することにより、容易に図形を回転させたり、重ねたり、分割したりすることができます。それを電子黒板で拡大表示すると、視覚的にもわかりやすい授業に生まれかわります。

### 録画フォームをセルフチェック



体育の学習では、仲間と声をかけ合い、先生から指導を受け、技術の向上をめざします。しかし、自分で自分の動きを確認することは困難です。そんなときにはPCタブレットで、ボールを投げるフォームや跳び箱をとぶ姿などを撮影すれば、その場ですぐに確認することができます。

体育の学習では、仲間と声をかけ合い、先生から指導を受け、技術の向上をめざします。しかし、自分で自分の動きを確認することは困難です。そんなときにはPCタブレットで、ボールを投げるフォームや跳び箱をとぶ姿などを撮影すれば、その場ですぐに確認することができます。

### Let's study English with ALT by using ICT.

英語活動では、電子黒板に表示された写真や絵カードでイメージ化するとともに、ALT（外国人指導助手）によるネイティブの発音に直接ふれることを通して、これからの国際社会でも通用する英語によるコミュニケーション能力を育成しています。



## 校園長先生に聞きました！学校園所自慢 'My school is the best!'

### 赤穂市立赤穂西中学校

Q1 どんな学校ですか？

『一生懸命 前向きに生きる』・『命かがやく 夢きらめく』これは校舎3階に掲げている2つの言葉です。思いやりの心を大切に、何事にも本気で取り組む生徒たちが、夢に向かって生き生きと学んでいます！

Q2 ちょっといい話！

資源ゴミ回収に取り組み、その収益で車椅子を購入し、毎年、特別養護老人ホーム「桜谷荘」に贈呈しています。併せて、施設の清掃ボランティアを行うとともに、吹奏楽部の演奏を披露し楽しんでいただいています。この活動は、25年間継続して続いています。

Q3 今、力を入れて取り組んでいることは？

生徒会スローガン『本気の西中 みんなの幸せ あふれる笑顔』のもと、チーム西中として教育活動を進めています。



### 赤穂市立御崎幼稚園

Q1 学校園所の自慢は？

園庭の池にざりがにが何年も前から住みついています。釣糸を垂れながら「するめでよく釣れるで！」「〇君糸引いてるよ！」「小さい組さんもする？」という元気な声が響き発見や交流が生まれます。子供たちの成長を見守っている池です。

Q2 最近嬉しかったことは？

園庭の清掃を呼びかけると、多くの保護者の皆さんがほうきを持って参加してくれました。参加できなかった方も、可能な時に各々清掃してくれました。PTA全員の協力が得られる幼稚園だと心強く思いました。

Q3 今力を入れて取り組んでいることは？

楽しみながらの体力作りを目指し、毎日チャレンジタイムを設け、いろいろな遊びに取り組んでいます。うんてい、鉄棒、フープ、ダンス、縄跳び、竹馬など、焦らず、諦めずチャレンジしています！

